

## 6 - 3 <sup>あかうさぎ</sup>赤兎山（福井 - 石川県境）に発生した二度目の群発地震活動

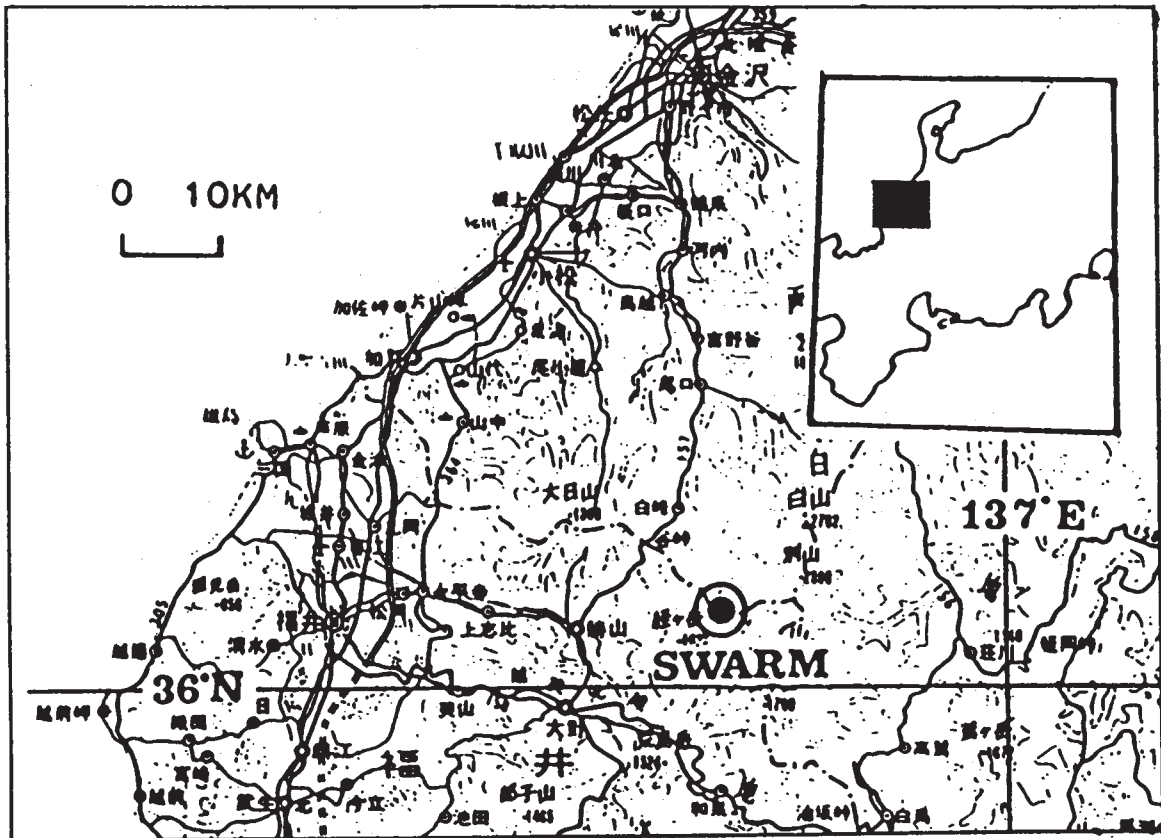
### The Second Activity of Earthquake Swarm at the Akausagiama, Fukui-Ishikawa Border

京都大学防災研究所 北陸微小地震観測所  
Hokuriku Microearthquake Observatory, Disaster Prevention Research Institute  
Kyoto University

1980年6月に、 $M = 3.4$  (JMA) を最大地震とする群発地震活動が、赤兎山の近くに発生した（既報）。この活動は、その後約半年でほぼ終息したが、1982年12月に、その西側約2 kmの地点に、再び群発的な活動が見られた。両次の地震発生ひん度を図2に示す。a) は1980年のもので、北陸微小地震観測所によって震源決定されたものの日別ひん度である。今回の活動はb) に示された如く、規模の小さなものであったため、震源決定されたものは、20個にすぎない。ここでは、同観測所の勝山観測室 (KAJ) での連続記録によって、小さな地震も含めて数をかんじょうした。また、時間軸もひきのばして、1時間あたりの個数を表示した。この活動は規模が小さいとはいえ、同観測所のネット付近で起きる地震としては、目立って群発的なものであった。最大地震は12月26日の $M = 2.7$  (JMA) である。図3に2回の震源分布を合わせて表示した。構造には、ルーチン処理に用いている成層構造を採用したが、 $V_p = 5.9$  km / sec とした場合の半無限構造を用いても、よく似た震源分布が得られる。なお、決定には固定した4点のP-timeだけを使用した。特徴的なのは、今回の活動は前回のものより西に約2km寄っているが、深さ分布には大差がなく、また各々の活動で大き目の地震が深く決まっていることである。さらに、前回の活動によって、それまで空白域であったところが、うずめられた感があったが、今回の活動で、さらに空白部分が狭められ、もっと西の大日山の活動域まで、あと10km程度とせまったことも注目される。

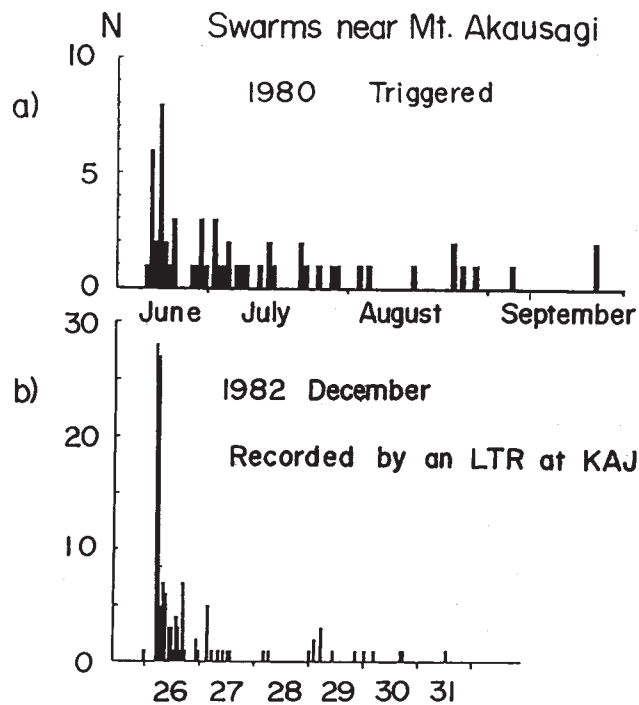
#### 参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所北陸微小地震観測所：赤兎山（福井 - 石川県境）に発生した群発地震活動，連絡会報，25（1981），240 - 242.



第1図 赤兎山群発地震発生場所

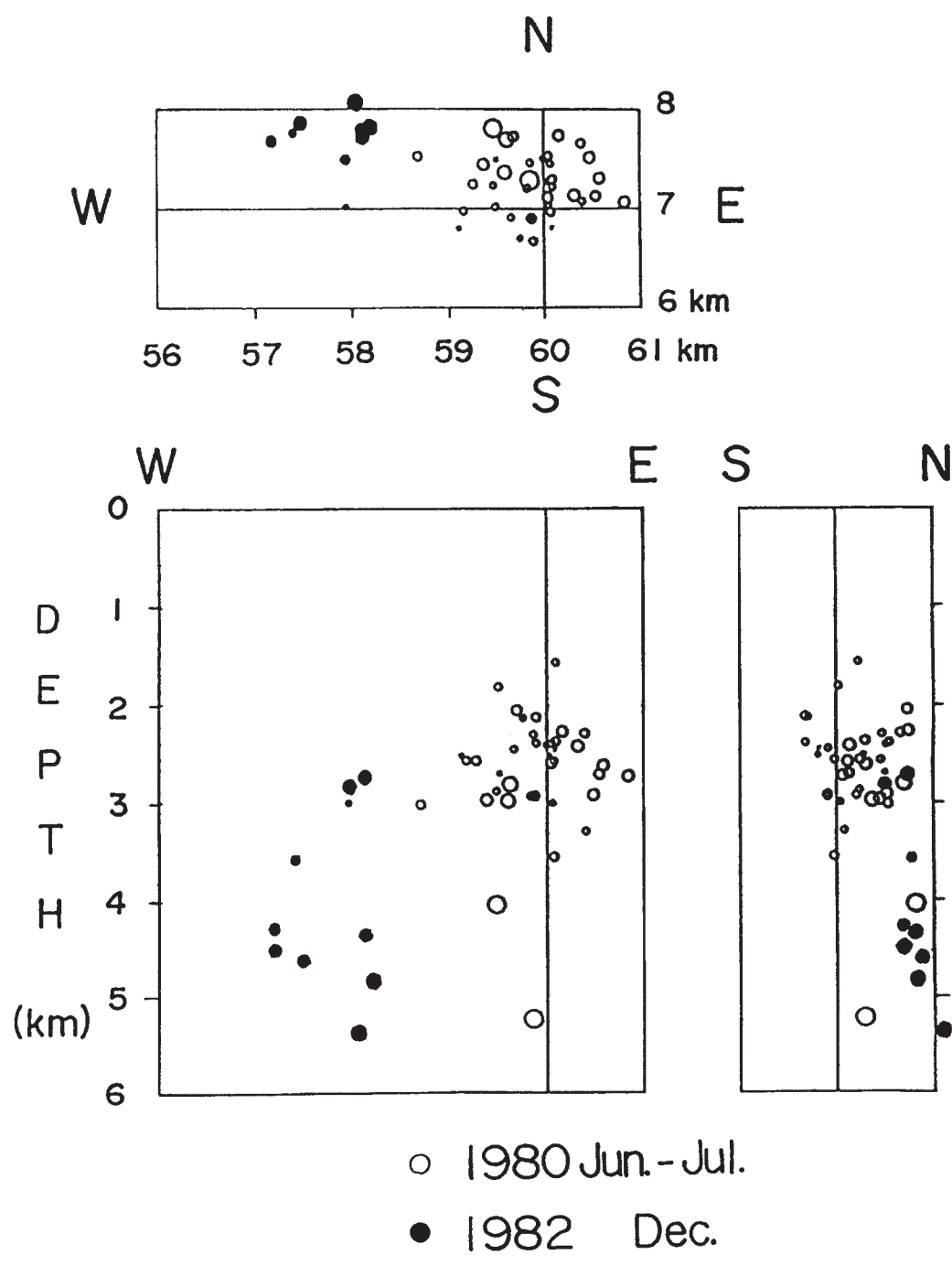
Fig. 1 Location of the Akasagiyama earthquake swarm.



第2図 赤兎山群発地震発生数の時系列

- a) 前回 (1980年)
- b) 今回 (1982年)

Fig. 2 Time series of the Akasagiyama earthquake swarm, a) 1980 swarm, b) the present swarm (1982).



第3図 震央分布（上図）と鉛直断面図（下2図）

Fig. 3 Epicentral distribution (upper) and distributions on the vertical cross sections (lower right and left).